中学校国語

3一　読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える

一　山田さんは、「1　はじめに」の〰線部「もち」を「もったため」に直すことにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1　「判じ絵」を知ったきっかけを明確にしようとした。
2　「判じ絵」が現代に伝わった理由を明確にしようとした。
3　「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしようとした。
4　「判じ絵」を調べることにした理由を明確にしようとした。

【下書きの一部】

「判じ絵」について

山田　光一

1．はじめに

学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。

2．調査方法

学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3．調査結果

■「判じ絵」とは何か

「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。

【図1】ザル

（ア）ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものとが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」ことが必要になる。（イ）言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものなのである。（ウ）また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。（エ）そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。（オ）さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。

■「判じ絵」の解読の面白さ

「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。

【図2】スズメ

【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図3】

【図3】は、

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等　B　書くこと

エ　読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。

≪推敲≫

■正答及び正答率等

正答	正答率	誤答率	無答率
・　4「判じ絵」を調べることにした理由を明確にしようとした。	５２．３％	４６．９％	０．８％

■主な誤答とその要因

主な誤答	要因
・　3「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしようとした。 （反応率　２９．３％）	・　「ため」の前後の関係が「原因と結果」の関係になることを十分に理解できていないと考えられる。

内容の系統と指導のポイント

小学校第5・6学年

図表やグラフを用いた目的や意図を捉える

平成３１年度全国学力・学習状況調査　（小学校）

1 一　公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料２〉と〈資料３〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する。

〈正答〉
資料２…２と解答しているもの
資料３…４と解答しているもの

正答率75．2%　誤答率24．2%　無答率0．6%

（国立教育政策研究所 HP）

B　書くこと　オ
文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること

中学校第1学年

書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているか検討する

平成３０年度全国学力・学習状況調査　A問題（中学校）

4 一　意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する。

〈正答〉
４と解答しているもの

正答率60．3%　誤答率39．4%　無答率0．6%

（国立教育政策研究所 HP）

B　書くこと　エ
読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること

中学校第2学年

書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する

平成３１年度全国学力・学習状況調査　（中学校）

3 一　意見文の下書きに読み手にとってわかりやすい文章にするために、書き加える言葉として適切なものを選択する。

〈正答〉
３と解答しているもの

正答率87．3%　誤答率12．3%　無答率0．4%

（国立教育政策研究所 HP）

B　書くこと　エ
読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること

Point
「読むこと」の学習においても、文章の構成、表記、語句の用法、叙述の仕方や表現の効果などに注目して文章を読む活動を繰り返し行い、読み手としての力を育んでいく。

本設問の活用の手順

① 読み手の立場に立って文章の構成、表記、語句の用法、叙述の仕方や表現の効果などを確認しながら文章を整えることができるよう、新聞に意見文を投書する活動を設定し、意見文の下書きについて推敲させる。
② 意見文の下書きを個人で作成した後、①において確認した事項を観点としてグループで読み合い、それぞれの観点において読み手を意識して書くことができているか検討させる。
③ グループで検討した内容を基に推敲し、意見文を完成させる。